

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292200027		
法人名	医療法人社団千葉医心会		
事業所名	グループホーム増尾		
所在地	千葉県柏市増尾749		
自己評価作成日	平成24年10月8日	評価結果市町村受理日	平成24年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	平成24年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が経営しており、医療面でのサポート、支援を強化しています。行事等に力を入れており、地域の皆様方と一緒にご利用者の笑顔に繋がって行くケアを心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東武野田線の増尾駅から徒歩約25分の、農地に囲まれた広い敷地内に建てられた、専用の2階建木造ホームです。訪問には少し不便かもしれませんが、畑に囲まれた閑静な場所で、南側に庭と広い駐車場が配されているので、日当たりがよく明るいうららかな環境となっています。
 閑静とはいえ住宅街でないため、取れた野菜を持って頻りに訪れ利用者や話していく農家の人もあり、周りの方々との交流がすすみ、地域に根ざしたホームとなっています。
 ホーム内の雰囲気も明るく、最近特に改善しているものと見え、今回実施した家族アンケートで多くの方が回答を寄せ、その全員が、「職員は、家族の困っていること、不安、求めていること等の話をよく聞いてくれる」と回答しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のもと、日々実践できるように管理者、職員一緒に会議などで話し合っ業務に努めています。	「家庭的な環境の中で地域の皆様と関わりながらその人らしい自立した尊厳ある生活が送れるようお手伝いします」との理念を掲げ、この理念を大前提として1日の目標を立てることにより、職員の間で共有を図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しています。地域のお祭りなどにも招待されています。ご近所の方もよく来られ共に過ごす時間も多いです。	自治会に加入し、神社の祭りに神輿や獅子舞が敷地内にやってきましたり、盆踊りに参加したり、町会の芸能大会にはホーム職員の踊りが欠かせないものとなる等親密な関係を築いています。また、近隣の農家の人達が大根等の野菜をよく持ってきてくれます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所・地域に顔を出した時は認知症の理解を深めていただけるようにホームの紹介等を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出たご意見はすぐに反映できるように各関係機関とも連絡をとり実践するように努めています。	市の担当者、民生委員、自治会の方、家族及び利用者の参加を得て年3～4回開催しています。話題は地元のことが主体となりますが、地元の方も参加した防災訓練の実施状況をスライドにして映写し、関心を高めることにうまく利用しています。	会議は2カ月に1回以上の開催が望ましいとされていますが、担当役所は必ずしも拘ることはないとしているので、当面実りのある実質的な会議となるよう注力することが重要と思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	柏市グループホーム連絡会に所属して情報交換等を行っています。	市の担当者が理解あり、土日に開催する運営推進会議にも出席してくれるので、親しく話し合い、相談しやすい関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議などで話し合い、拘束に繋がらないかを検討しています。	玄関は日中施錠せず出入りは自由にできます。身体拘束についてはマニュアルを整備して内部研修を行っており、職員もおおむね理解しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議などで話し合い、日頃のご利用者の身体チェックも欠かさずに行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会などを開いて学びの場をもち関係機関との連絡体制を密にとっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族、利用者とは十分な理解のもと行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。また個別に各居室に要望・連絡ノートを置き意見の反映に努めております。	前回の外部評価で勧められて各居室に家族との連絡ノートを置き、意見の汲み取りに成果を挙げています。今回実施した家族アンケートの回答率がかなり上がりましたが、その全員が「職員は、ご家族の困っていること、不安、求めていること等の話をよく聞いてくれる」と回答しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、職員面談等を行っています。また親睦会も開き意見を出しやすいようにしています。	年2回個人面談を行う他、随時職員とのミーティングを行っています。職員は何事も遠慮なく自由に話し合える雰囲気があると話しています。職員の提案により、寝たきりに近い方の体位交換を失念することが無いよう管理表を作った等の例があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議で随時、話し合っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	通信講座等の補助などバックアップしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内、連絡会等で情報の共有をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者との個別の話し合い、声かけを大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望等をしっかり受け止めサービスに反映できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にあったケアができるように関係機関と共に支援するように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気のもと職員と一緒に支援し合えるような関係作りを実践しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と一緒に相談しながら支えあえるような関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活暦を大切にして個々にあわせたケアを実践しています。	利用者は地元出身者が多く、家族や知人が来訪したり、近隣の顔見知り立ち寄りなど、気楽に立ち寄れる雰囲気が出来ています。また今までの馴染みの場所(理容室等)に行く時は、職員が付き添い個々に合せた支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介の立場になりながら共に支えあえる支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談に乗れることを説明し関係機関にも伝達しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の想いを大切にケアに繋がって行くように努めています。	入所時に聞き取った、今までの一人ひとりの思いや意向を書いた生活歴を申し送りノートに挟んで、職員が読んで把握するようにしています。また日常のケアでも本人の現状に合せた支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表などに記入して把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録等に随時記入するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各関係者と一緒に相談しあいながら計画を立てています。	日常のケース記録を参考に、関係者(医師・訪問看護師・訪問リハビリ)や利用者・家族・施設長・担当職員等の意見を反映しながら介護計画を作成しています。また2か月に1回のサービス担当者会議を行い、3か月毎の見直しに反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	随時ケース記録に記入して介護計画に反映するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の事業所とも連携をとり柔軟な対応ができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣施設を利用できるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を最優先して個々に対応できるようにと努めています。	受診は、利用者や家族の希望を優先し、今までのかかりつけ医に通院する時は職員が付き添い、家族に報告する支援をしています。ホームドクターが月2回来訪し、他に週1回の割で訪問看護師が来る等、しっかりした医療体制が取られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関と常に連携をとれるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃からの協力体制を密にとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの重要性を理解してご利用者様とよく話し合い希望に添えるように関係機関と共に対応しています。	入所時、終末期の在り方を利用者・家族と話し、同意書を取り交わしています。重度化した場合は再度、医師・家族・ホーム側で話し合い、対応が取られています。またターミナルケアに備えて、職員は学習会や外部研修に参加し、医療面においても看護師との24時間対応による支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会や外部研修などに参加するようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等を定期的に行っています。地域の方との協力体制もとっています。	消防署参加の防火・避難訓練と自主避難訓練をあわせ年2回地元の方の参加を得て実施しています。夜間想定避難訓練も対応手順を決め実施しています。スプリンクラー等防火設備も整っています。水・食料品は3日分程度備蓄しています。	東日本大震災当時の被災地の状況を考えると、食料品等の量と種類、頭巾等の防災グッズにつき絶えず見直していくことが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは特に大事にして管理者も日々、職員に重要性を伝えています。	一人ひとりの自尊心を傷つけないよう、言葉掛けには気をつけ、(～さん)で統一しています。月2回の学習会ではプライバシーを取り上げたり、また施設長は職員会議でも、毎回サービスに関する文章を回し、職員が常に意識をするよう取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の想いを大切にしたいが引き出せるように何気ない支援を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の意向をできるだけ尊重してケアに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の意向を尊重して個々に合わせた支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の場が和やかになるように個々に合わせた雰囲気を出せるように努めています。	食材は外部業者に委託し、週2回搬入しています。献立は日常の希望も取り入れ職員が作成していますが、食材配送業者の栄養士が栄養バランスをチェックしています。職員と一緒に利用者も配下膳や食器を拭いたりしています。また行事食やお誕生日には希望食が出たり楽しめる支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃の体調などをよく観察して献立表などを作成し支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にご本人にあった口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握してできるだけトイレで行えるような支援をしています。	比較的介護度が低いことも有り、日中は布パンツ使用者が多く、排泄チェック表を参考にトイレへの支援を心掛けています。夜間時でもリハパンツを使用し、時間で誘導することで、自立に向けた取り組みをしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師・看護師に相談しながら個々にあわせて支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯にとらわれずにできるだけ希望に添えるようにケアしています。	入浴は週2回で1日3名を原則とし、14時から16時の時間帯で実施しています。入浴拒否の場合は職員が個々に合せた働きかけをし、曜日や時間を変えたり、体調によっては清拭をする等の工夫をしています。また毎日足浴を欠かさず実施し、清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを大切に把握に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬表のファイルがあり気をつけています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生き生きとした生活提供に繋がっていくように工夫、支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添えられるように外出しています。行事等でも積極的に外出できるように支援しています。	天気の良い日には毎日近くの散歩コースに出かけています。地域との交流もあり、挨拶したり声をかけられたり楽しみの一つでもあります。また年間行事で毎月外出(コスモス見学・地域のお祭・初詣等)が予定されていて楽しめるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力にあわせて支援、管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々に応じて対応、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活環境には気を配りご利用者様が安心して過ごせるように配慮しています。	南側が庭と広い駐車場となっているうえ、開口部が広いため、日当たりが良く明るいリビング兼食堂となっていて、居ながら外の季節が感じられます。リビングに付随した畳敷きのスペースや廊下、1～2階をつなぐ階段が広く、ユニットごとに3か所のトイレを備え、全体にゆったりとした造りです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキ、ソファ、畳部屋などの場所を確保しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	相談しあいご希望に沿った生活環境を提供できるように努めています。	居室は、クローゼット、エアコン、洗面台が備え付けで、壁面にレールを取り付けてちょっとしたものを掛けたりできるように工夫されています。安全のため高い筆筒等の持ち込みは避けるようにしていますが、整理筆筒、テレビ、ぬいぐるみ等持ち込み自由で、写真を飾ったりしてそれぞれが居心地良いよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーが原則で環境整備に取り組んでいます。		